

# 「共謀罪」ない未来望む

「共謀罪」法案の廃案を求めて毎週国会正門前で抗議行動を呼びかけてきた「未来のための公共」は、同法の強行成立に対して15日夜、声明を発表しました。国会正門前で馬場ゆきのさん(20)が読み上げました。全文を紹介します。

## 未来のための公共が声明

共謀罪が、6月15日午前7時46分、自民、公明、そして日本維新の会などの賛成多数で可決、成立しました。この間の政治過程のすさんださは明らかで、特に採決にあたっては、法務委員会での法案審議を「省略」すべく、一般に「禁じ手」とさえ呼ばれる中間報告制度が用いられました。政党間の妥協・交渉の余地を阻むこうした強行な政治手法は、つまり、多数決の名のもとに少数者の観点をないがしろにし、安定した国会運営を不可能にするものです。また

要な手段です。また、メディアに対しては、今後、共謀罪のその後について、詳細な調査・報道をすることを求めます。

大切なことは、世論を喚起し、運用実態を明らかにしつつ、市民とともに共謀罪のない未来をつくっていくことです。



声明を読み上げる馬場ゆきのさん(15日夜、国会正門前)

す。一緒に共謀罪を止めていきましよう。

決して、これで終わりではありません。私たちは、女性の権利が抑圧されない社会を望みます。少数者の観点がながいしるにされない政治を望みます。格差の拡大を止め、より平等な分配を可能にする

社会政策の充実を望みます。働く人が尊厳をもって働ける、そんな社会を望みます。核兵器のない社会を望みます。憲法が守られ、個人の尊厳が擁護され、生活の保障される日本を望みます。

なにより、私たちは、次の世代に、「おかしいことにおかしいといえる社会」を受け渡したいと考えます。政治について考え、行動すること。それは、住みやすい社会を次の世代へと引き継ぐ、未来への責任です。

今後、安倍政権は改憲へと一直線に向かっていくだろうと考えられます。これまで行われてきた政治は、たとえば特定秘密保護法、「解釈改

憲」、安保法制、そして今回の共謀罪に至るまで、一貫して、市民の政治的自由を損ない、民主主義的な政治過程を脅かす内容をもつものでした。そして、次に待つ政治課題としての改憲は、まず憲法改正それ自体が目的化されたものであると同時に、自民党改憲草案から明らかのように、市民の権利よりその義務を強調し、公共の福祉より公の秩序を優先させ、立憲主義を否定するものです。現政権による改憲は、私たちの求める未来とは、そして日本国憲法の掲げる理想とは、著しく異なる、戦前を想起させるような、暗く、閉じた時代をもたらすでしょう。

こうした政治を、こうした政治の先にある自民党改憲草案を、決して容認してはなりません。

私たちの未来は、私たちが決めていきます。私たちは、政治に関して未熟ではあっても、おかしいことにはおかしいというべきだと考え、国会前に足を運び、声をあげ、自分の言葉を紡いできました。一緒に政治を変えましよう。一緒に、次の世代に堂々と受け渡せる社会を残しましよう。適切に批判をしつつ、ともに立つ立憲4党を、メディアを応援しましょう。日本国憲法に刻み込まれた理念を擁護し、共に理想に賭けましよう。

そして、この国、社会で生活し、未来に新しい世代を待つ世界に生きる一人として、自民党改憲草案を止めましよう。これ以上の国家の私物化を許す道理はありません。元はといえば、安倍政権を選じたのも私たち自身です。それなら、私たち自身の手で、安倍政権を終わらせましよう。この時代、この場所から改めて、上から一方的に押し付けられる「公」なんかじゃない、今、私たち自身の足元から未来のための「公共」を、私たちが立ち上げましよう。

### ◇

これは新しい「始まり」で